

# 履修人数やITツールの進展に合わせた工夫などで、グループワークとディスカッションの効果を高める

**2018年度春学期ティーチングアワード受賞**  
**対象科目：政治分析方法の基礎01**

グループワークやディスカッションなどを授業に取り入れる例が増えている。久米教授が担当する「政治分析方法の基礎01」では、ほぼ毎回の授業でグループワークを実施しているが、テーマの選び方や進め方、ITツールの活用といったさまざまな点を工夫することで、狙い通りの学習効果を得られているという。履修する学生からも好評で、今回のティーチングアワードでは「理解度」や「有意義度」の点で特高い評価を受けている。

**最初にペアで話し合うことで、全員がグループワークに参加できる**

「政治分析方法の基礎01」は、政治や経済、社会などのさまざまな現象について、その原因を考えるための方法論を学ぶ科目だ。授業では、毎回のようにあるテーマ（議題）について、グループワークやディスカッションなどを行っている。90分の授業時間のうち、約60分はグループワークなどに充て、残りの約30分でそのテーマに関する講義をしているという。「座学でしっかり知識を覚えることが有効な科目もありますが、この科目については自分で考えていかないと、講義だけではなかなか身につけません。そこで、原型となる科目がスタートした約15年前からグループワークを取り入れています」。

久米教授がグループワークでの工夫として挙げるのが、「全員が話し合いに参加するための方法」だ。具体的には、2年ほど前からグループでのディスカッションの前に、2人ペアで話し合う時間を設けている。「以前は、履修人数が20名程度だったので4人でグループを組んでいました。しかし、人数が増えたため6人で1グループにしたところ、グループ内であまり発言しない人が出てきてしまいました」。



**久米郁男**

政治経済学術院教授

この授業は選択科目であり、出席条件も厳しいことから、履修しているのはもともと意欲の高い学生ばかりだという。「にもかわらず、発言をしないのは無関心だからではなく、心理的に話しづらいのだと考えました。で

**PowerPointや「わせポチ」などのツールの活用で、授業を効率的に進行できる**

も、ペアであれば話をしないわけにはいきません。2人で話した結果を持ち寄って、改めて6人でグループディスカッションを行うスタイルに変更して、6人での話し合いが非常に活発になりました」。

インターネットにPowerPoint、さらに「わせポチ」などのIT環境とツールを積極的に活用していることも、この授業の特徴だ。「Wi-fi環境とITツールが普及する前は、グループワークで話し合った内容を付箋に書いて大きな模造紙に貼り、それをベースにディスカッションやプレゼンテーションをしていました」と久米教授。「しかし、ここ数年で徐々に環境が整い、今は話し合った内容をグループごとにその場でPowerPointにまとめて、Web版クリッカーの『わせポチ』を使ってディスカッションをしています」。

## 分析法の意義を強く感じられるようなテーマを、常日頃からピックアップする

「模造紙に付箋を貼るやり方だと、文字が小さくみんなで見るとは苦労しました。PowerPointなら、スクリーンに映せばすぐに全員で内容を共有できます」。「わせポチ」は正誤問題に使うこともあるそうだが、主には前述のとおりディスカッションで活用している。具体的には、スクリーンに映したPowerPointの内容を見て、各自が「わせポチ」に意見を自由に書き込み、そこからディスカッションをしていくそうだ。

「以前は、学生を指名して意見を聞いていましたが、時間的な制約があり、意見を聞ける学生数は限られていました。また、学生が何を言うかは、聞いてみるまでわかりません。面白いやり取りになる可能性がある反面、授業としてこちらが持っていきたい方向に話がなかなか進まないこともあります。『わせポチ』であれば、スクリーンでさまざまな意見を表示し、一覧にした上で、こちらが気になる意見をピックアップできるので、効率的に授業を進行できるのがメリットですね」。さらに、授業中にはインターネットでテーマについて検索することも積極的に行っている。「その際は、1つのサイトだけを見て結論を出すのではなく、複数の内容を見比べて、どれが信用できるソースなのか、エビデンスを提示する訓練もさせています」。

各回で提示したテーマに関するグループワークやディスカッションを通じて、さまざまな事象の分析方法を学んでいくこの授業では、「どんなテーマを選ぶのか」が、実は工夫すべき重要なポイントだと久米教授は語る。「日頃から、テーマに使えるニュースや話題がないか、適切な『ネタ』は常に探しています」。

最終目標は政治に関わる分析方法を学ぶことだが、授業で扱うテーマは政治に限らない。「どちらかというと、世間の議論が一方向に傾いているものを、ファクト（事実）に戻ってエビデンスを確認すると、実は逆の結論になる……といった例のほうが、分析方法を学ぶ

意義をより強く感じてもらえます。そこで、そうしたテーマを見つけることが常に課題ですね」。また、堅いテーマばかりだと難しくなるので、少し面白い話や日常的なテーマなども取り上げている。「たとえば、背の高い人ほど所得が高いという『身長プレミアム理論』というのがありますが、こうしたテーマも扱うようにしています」。

久米教授は、現在の授業スタイルを今後も続けていくつもりだが、さらに加えたいと考えているのが、授業で扱うテーマを「動画」で見せることだという。「具体的な内容を伝えるには、口頭だけで説明するよりビジュアルがあったほうがインパクトがあるからです。10分程度のニュース動画や討論番組を想定していますが、受動的に映像を見るだけの時間があるだけでよいのかどうか。とは言え、Course N@viにアップして各自見ておくというのも、著作権の問題があり難しい。さらに、テーマにふさわしい適切な動画が見つかるのかどうかなど、動画に関してはこれからよい解決法を考えていくつもりです」。